



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

国際ロータリー 第2500地区 第3分区

## Asahikawa Morning Rotary Club

2021～22年度 第1309回 例会報告

例会日：2022年2月10日（木）時間：7:30～8:30

2500地区ガバナー

ロータリーの素晴らしさを伝えましょう

漆崎 隆（釧路ベイRC）

RI会長：

シェカール・メータ（インド）

例会場： ZOOM 例会

クラブ活動方針 『困難な今だからこそ』 クラブ会長：井上雄樹・幹事 飯塚 達夫

会長挨拶 井上雄樹 2022・2・10

みなさん、おはようございます。

本日もズーム例会となりますが、やはり休会ではなく皆さんの顔を拝見すると

元気が出てきます。さて、コロナはなかなか下がってきませんね。昨日も旭川は最多を更新しました。そして、前回までの波を違ってコロナが他人事ではなくなってきています。うちの子供の学校でもクラスターが出たそうで、学級閉鎖や休校になっており、子供たちの生活に大きな影響が出ています。オミクロン株は重症化しないと言われていますが、感染力が高いので、感染対策を徹底しようとする生活に影響が出てきてしまいます。この波が落ち着いたら、我々も意識を変えて、どうやって日常生活を回していくかを考えなければ持たないなと思います。

本日は国際奉仕委員会の竹澤さんのスピーチです。よろしく願いいたします。



会務報告

本日はございません。

## 会員スピーチ

竹澤元男 会員

2月にはロータリアンカレンダーで「世界理解月間」として指定されています。この日には、1905年2月23日に行われた最初のロータリー例会の記念日があり、現在この日は「世界理解と平和の日」と呼ばれています。RI理事会は「世界平和のために不可欠な理解と親善」を強調する例会プログラムを計画し、特別な活動に着手することによって世界理解月間を祝うよう、全てのロータリー・クラブに要請しています。この機会を利用して、国際奉仕活動を始めたり、他国のロータリー・クラブと連絡を取り合ったりしています。2月はロータリー友情交換、あるいはその他のロータリー財団プログラムへの支援を推奨するのに格好の月です。

世界理解月間は、ロータリー・クラブが親善、平和、世界中の人々の相互理解といったロータリーの絶え間ない探求を推進する好機です。

### RI 会長エレクトロが2021—22年度の会長テーマを発表

奉仕は誰かの人生だけでなく自分の人生を豊かにするとRI会長エレクトロのメータさんが仰っております。

人のために世話をし、奉仕することが最良の生き方。なぜなら、その経験を通じて誰かの人生だけでなく、自分の人生を豊かにできるのだから…。国際ロータリーの次期会長であるシェカール・メータ氏はこう述べ、奉仕プロジェクトへの参加を呼びかけました。

メーター氏は、ロータリー国際協議会中の2月1日、次期地区ガバナーに向けて2021-22年度の会長テーマ「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」を発表しました。地区ガバナーエレクトロを研修するための年次行事である国際協議会は当初、オーランド（米国フロリダ州）で開催予定でしたが、新型コロナウイルス流行のためバーチャル（オンライン）で開催されました。

奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすには、ロータリーの会員基盤を広げる必要がある、とメータ氏。全世界の会員数は、過去20年間、約120万人のまま横ばいです。このため、2022年7月1日までに130万人に増やすことを目指して地区で率先して活動するよう、次期ガバナーに呼びかけました。メータ氏の「Each One Brigs One」（みんながひとりを入会させよう）は、今後17ヶ月間、全会員がロータリーに一人を入会させることを求めるイニシアチブです。

## 平和の推進:世界におけるロータリーの平和構築の歴史

「平和の維持」を呼びかける第一次世界大戦前に採択された決議から、今日のロータリー平和センターへのたゆまぬ支援に至るまで、ロータリーには、世界の地域社会において平和を推進し、紛争の根本原因に取り組んできた長い歴史があります。

### ロータリーの目的

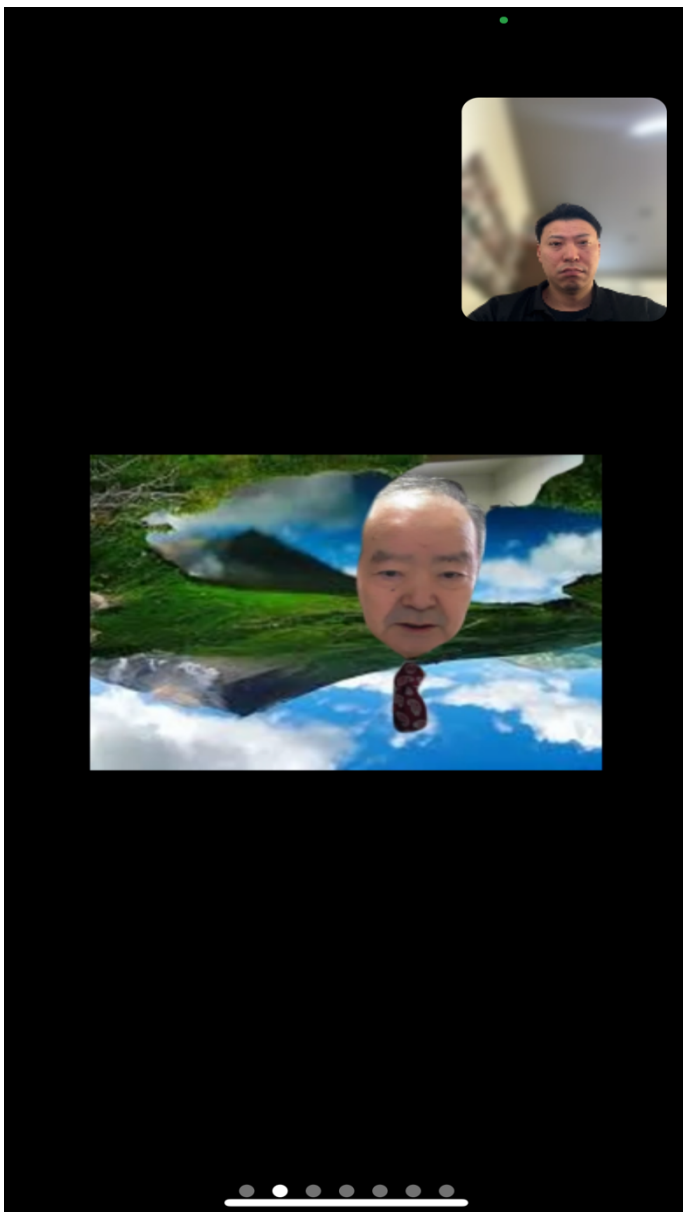
第一次世界大戦の記憶がまだ新しい1912年、スコットランド・エディンバラで開催されたロータリー国際大会の出席者らは、国際ロータリークラブ連合の定款を修正し、「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」という目標を加えました。

さらに1922年の国際大会では、国際ロータリーと各クラブの定款が全面的に変更されました。これにより、それぞれ異なっていた目的が「ロータリーの目的」へ

と置き換えられ、この新しいアプローチが平和への展望を持ち続ける鍵となりました。

## 国際理解研究会

この目的の達成を見据えた初期の取り組みとして、1934年にテネシー州ナッシュビルのロータリアンたちが国際理解の推進・発展を目的として企画したある一つのプログラムが挙げられます。このプログラムでは、11日間にわたって地域社会で公共集会が行われ、著名な作家や経済学者、科学者、政治家、評論家を招いて経済や世界平和、科学進歩といったトピックの議論が展開されました。



「国際理解研究会」として知られるようになったこのアイデアは好評を博し、1936年に他のロータリークラブも同じようなプログラムを行うよう国際ロータリーが提案しました。研究会の開催は各クラブに一任されていましたが、講演者に支払う費用のうち、クラブで賄えない分についてはロータリー財団が支援しました。その後10年かけて、アメリカ大陸、オーストラリア、ニュージーランドの965のクラブにより数百もの研究会が提唱され、国境を超えて世界情勢を深く知りたいと願う何千もの人にその機会を与えました。

\* 旭川モーニングRC 出席報告 \*

\* 本日の出席 第 1309 回 例会 総員 22 名  
2 月 10 日分 出席 20 名 出席率 90.91%

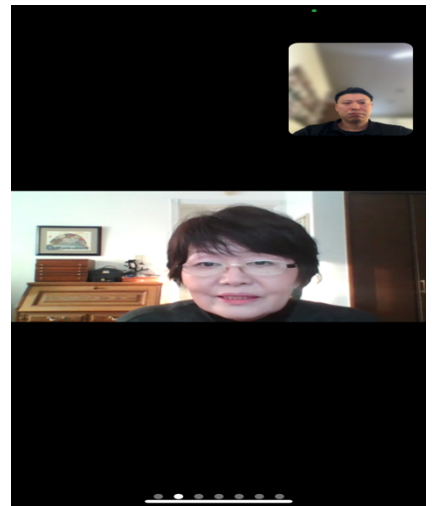
\* 修正出席 第 1306 回 例会 総員 21 名  
1 月 13 日分 出席 19 名 出席率 71.43%

\* ビジター            ございません

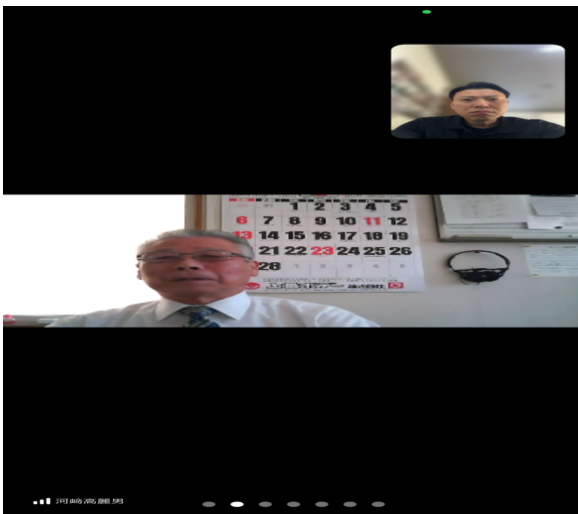
\* ゲスト              ございません

\* メークアップ      2/3・武田昭宏 (旭川東 RC)  
                         2/7・武田昭宏 (旭川南 RC)

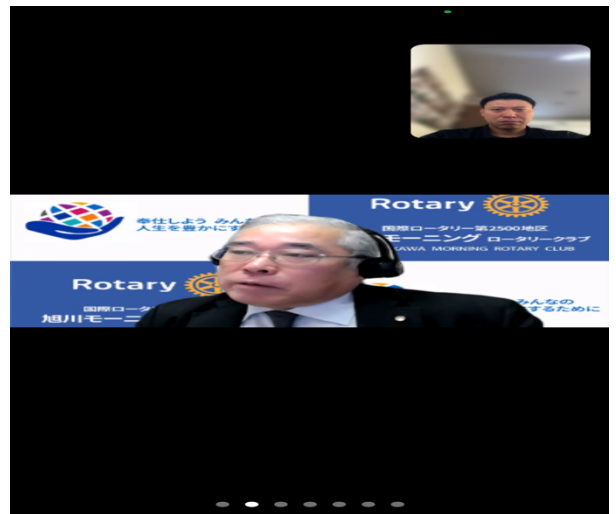
2/10 分    ニコニコ                            0 円 (ZOOM 例会のため)



↑ 司会進行をする小柳 SAA



↑ 出席報告をする河崎会員



↑ 会務報告をする飯塚幹事

ニコニコ BOX

ZOOM 例会のためございません。